

(別紙の2)

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に笑顔でやさしさと思いやりの心を持ち、地域へ貢献できるように毎日元気よくサービスの提供をしている	「地域介護の星になりましょう」という事業所理念については介護ステーションに掲示し共有に努め、月1回の会議の席上、理念に沿った支援について話し合っている。そのような中、職員は理念に対する理解を深め普通の生活を笑顔で送れるよう取り組んでいる。家族に対しては利用契約時に理念に沿った取り組みについて説明し、合わせて利用者の状況は生活記録として報告している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域とつながりを大事にし、季節の催しや近隣との交流が持てるようにしている	法人として区費を納め区の一員として繋がりを大切にしている。開設前から新型コロナ感染拡大の影響を受け地域との交流が難しい状況が続いている。今年度は区のお祭りのお神輿が来訪する予定であったが新型コロナ感染拡大が再び始まったことから中止となり残念な状況となっている。そのような中、社会福祉士を目指す大学生の実習を受け入れ、調理実習等を含めた介護全般に渡り利用者との交流の時を過ごしたという。ウィズコロナを踏まえ、地域ボランティアとの関わりを始め地域との交流をより一層深めるように努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎日の実践を通じて、認知症の方の理解やケア方法を学び、地域の方々に向けて活かせるようにしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により、実地での開催が難しい中で、書面により日頃の取り組みなどの報告を行っています。ご家族様については電話などを使用し、できる限り口頭での状況報告などを行っている。	新型コロナ禍が長引き書面での開催となっている。利用状況の報告、活動報告、事故・ヒヤリハット報告等を書面にし、家族、市職員、地域包括支援センター職員には郵送し、区長、民生委員には訪問して手渡しし、直接ご意見・助言などを頂くようにしている。	ウィズコロナを踏まえ運営推進会議の委員を通し地域との相互交流の拡大を図り、地域に密着し開かれたホームとなることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	当事業所の様子やサービス提供について伝え、日頃から市町村と連携が取れるように、これからも協力関係を築いていきたいと思っている	市高齢者活躍支援課とは事故報告、介護保険の相談等で連携を取っている。介護認定更新調査は新型コロナ禍の中ということもあり、認定期間は自動延長になるケースが多く、変更が必要な時には調査員が来訪し面会室にて職員が対応している。市のあんしん(介護)相談員の来訪は未だ行われていないが、収束後には受け入れ申請を行う予定である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議などで研修や学びの場を活用し、身体拘束についての知識を得てサービスの提供に努めている	法人の方針として拘束のない支援に取り組んでいる。入居時は多くの利用者が帰宅願望が強く、優しく寄り添い話を伺い、目先を変えたり、気分転換で近くの公園を散歩し気持ちが落ち着くように努めている。転倒・転落の危惧のある方が数名おり家族と相談の上センサーマットを使用している。年2回の行われる身体拘束廃止のウェブ研修と合わせ3ヶ月に1回行われる身体拘束適正化委員会で拘束に対する意識を高め、拘束のないいい支援に当たっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者様に関心を持ち、些細な変化などを見逃さないように、虐待についての知識を学びサービスの提供に努めている		

グループホームコスモスポールスター

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全員で、制度について学習し、日頃から話し合いや支援ができるようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者様・ご家族様には不安や心配等がないように、十分な説明を行い理解・納得を得られるようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に市町村の窓口を紹介したり、管理者を苦情相談窓口として対応し、ご意見箱の設置もしている。そのうえでケアや業務の変更を生かしている。	新型コロナ禍が続く中、家族との面会に配慮し2階の多目的室に「陰圧室」を設け感染対策を図り、事前に予約していただき週1回を限度に15分間の面会を行っている。また、利用者のホームでの生活の様子は写真入りで毎月発行される便り「コスモスポールスターだより」で行事の様子を中心にお知らせし、合わせて一人ひとりの細かな状況は職員が日々作成している「生活記録」でお知らせしている。更に、ホーム長がきめ細かく電話で家族と連絡を取り合い好評を得ている。誕生日や敬老の日には花や洋服、冬に備えた膝掛け等のプレゼントが届けられているという。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のグループホーム会議の場を設け、現場の職員の声に耳を傾けている。	月1回全職員が集まり易い夕方を選びグループホーム会議を開いている。行事計画の検討、業務内容の検討、職員の困り事相談、意見交換等が行われ、業務のレベルアップに繋げている。人事考課考課制度があり職員は自己目標を立て、それに対する自己評価を年2回行い、年1回、センター長とホーム長による個人面談が行われ、意見交換と様々な提案の場としモチベーションのアップに繋げている。また、年1回職員対象にストレスチェックが行われ、メンタルケアにも配慮がされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課表の自己評価や管理者評価が行われており、個々の職員がどのような項目について評価されるのか明確になっているため、自身の課題やテーマを明確にして業務に取り組めるようになっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員育成の重要性を認識し、事業所内外の研修へ参加を通し、技術と知識を身につけていくことを支援しています。外部Web研修を利用してスキル向上を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人の事業所をはじめ、外部法人の事業所とのネットワークづくりや研修会への参加を通して、サービスの質の向上と連携がスムーズに行えるよう取り組んでいます		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が困っている・不安や心配などを真摯に受け止め、安心して生活ができるように信頼関係の構築に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様がサービスを導入するにあたっての不安や心配・要望等を受け止め、入居者様同様に信頼関係の構築に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	適切なサービスが提供できるように、心身の状態や家庭の状況を踏まえてケアの見極めに努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と共に生活をする時間から、お互いに支え合う存在となれるように努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様とご家族様の絆を大切に、ご本人様の生活を共に支え合える関係を築けるように支援している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様が積み重ねてきた関係性や人・場所を大事にしてサービスの提供に努めている	仏壇やコタツ等、自宅で親しんで使っていた物を居室に置いていただき、寛げるようにしている。また、欲しい物については預り金の中から買ったり、高額なものについては家族にお願いをしている。理美容については馴染みの関係となっている理容師の来訪が1～2ヶ月に1回あり、カットしている。年末には職員と共に写した写真と共に利用者の一言コメントを添えた年賀状を作成し、家族あてに送り喜ばれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を把握し、お互いに関心を持ち、生活を共にする中で支え合う気持ちが生まれるように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係性を大切にし、ご本人様・ご家族様のこれからの生活を温かくフォロー・相談や支援ができればと思っている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これからの生活についての意向の把握に努め、ご本人様の思いを大切にしている	意思表示の難しい方もいるが、きめ細かな声掛けを行い表情や行動より意向を把握するようにしている。また、飲み物や洋服選び等自分で選ばれる方もいるが、二者択一の提案も含め希望に沿えるよう取り組んでいる。更に、居室や入浴中、散歩の時など、話をする中で利用者一人ひとりの性格を汲み取り、日々の支援に役立てている。合わせて、気づいた言動等はタブレットのケース記録に纏め、出勤時や夜勤時に確認するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの習慣や生活環境・サービスの利用状況などの情報収集を行い把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人の一日の過ごし方や心身の状態、環境の整備等、常に現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ニーズの確認やご本人の状況を把握・話し合いを行い、適切なサービスの提供ができるように介護計画を作成している	職員の勤務シフトは2ユニットを把握できるように組み、全利用者が把握できるように努めている。モニタリングは計画作成担当者職員が必要に応じて行っている。また、家族の希望は面会時や電話で伺いプラン作成に活かしている。入居時は暫定で1ヶ月で計画を組み、アセスメントやモニタリングを行い様子を見て、その後、本プラン作成に繋げている。短期目標3ヶ月、長期目標6ヶ月で見直し、状態に変化が見られた時には随時の見直しを行い、一人ひとりに合った支援に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員全員が情報の共有ができるように端末器具・ペーパー書類を活用し介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況に応じた対応・サービスが提供できるように努めている		

グループホームコスモスポールスター

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用できる地域資源を把握し、安心・安全に生活が送れるように取り組んでいる		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様・ご家族様のご希望を大切に受診を行っており、適切な医療を受けられるように支援している	利用契約時に医療機関についての希望を聞き、ホームとしての取り組みについて説明している。現在、入居前からのかかりつけ医利用の方が若干名おり、家族が受診にお連れしている。他の大半の方はホーム協力医の月2回の往診で対応している。また、併設のデイサービスセンターの非常勤看護師との連携が図られており、異常が生じた時には随時、相談と対応ができるようになっている。歯科については必要に応じ協力歯科の往診で対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ケース記録の共有・相談がスムーズに行え、入居者様が適切な受診や看護が受けられるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安心して治療を受け、退院できるように病院関係者との情報交換や相談、またはフォローを行いながらより良い関係づくりに努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべての事を十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人・ご家族と話し合いを行い、事業所ですべての事を十分に説明をしながら、今後の方針を関係者と共にチームで支援しています	重度化、終末期に対する指針があり、利用契約時に説明し家族の意向も伺うようにしている。食事や入浴が難しくなり終末期を迎えた時には協力医であるクリニックへ伺い、家族、医師、ホーム長で話し合いの場を持ち、家族の意向を聞き改めて看取り同意書にサインを頂き、医師の指示の下、医療行為を必要としない限りにおいて看取り支援に取り組んでいる。この1年以内に2名の方の看取りを行い、新型コロナ禍であるが個室対応で、家族には制約なく最期の時を共に過ごしていただいている。また、職員の学ぶ場ともなり「体を拭いたり、スーツを着せたり」のエンゼルケアには家族も参加していただき感謝の言葉を頂いたという。また、看取り前にはホーム長が講師となり勉強会も行い看取り支援に備えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当・初期対応の訓練について学んでおり、定期的に研修への参加も行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害を想定した訓練や避難方法を職員全員が習得しており、地域との協力体制を築いている	9月に当ホームの入るケアセンター全体で防災訓練を行い、夜間想定とし6階よりの出火想定で、利用者代表として数名ずつ各階から参加し避難訓練を行った。年明けには消防署への通報訓練を行う予定を立てている。更に、月1回、スマートフォンの一斉配信を利用した緊急連絡網の確認訓練も実施している。また、地域との相互協力の確立に向け、区長との連携を深める予定であるという。備蓄として「水」「食料」が2日分準備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人の存在と気持ちを大切に言葉かけやケアを行っている	本人の想いを受け止め、息子や娘になった気持ちで親しみを込め接するよう心掛けている。トイレ介助はドアの開閉、ノック等、特に気配りしている。また、居室、共用部分にはカメラが設置され安全確保に合わせプライバシーに配慮した支援に繋げている。呼び掛けは苗字を「さん」付けでお呼びしているが親しくなると下の名前で呼ぶこともある。合わせて入室の際には「ノック」と「失礼します」の声掛けを行うよう徹底している。更に、法人が定期的に行うプライバシー保護関連のウェブ研修に参加し意識を高め支援に当たっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるように、ご本人の思いや希望が表出しやすいように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のスタイルや希望に合わせて、どのように過ごしたいのか寄り添ったケアを行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの服やお好みの色など、その日・その時に合わせておしゃれができるように声掛け等行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好品など、職員と一緒にに行い、楽しい時間を提供している	食形態としてキザミ、ミキサー食の方もいるが全利用者自力で食事が摂れる状況である。献立は外注の食事会社の管理栄養士が季節感を加味した献立を用い、調理職員が調理して提供している。誕生会や行事の際には利用者の希望に合わせて「チラシ寿司」や「おやき」等をお出ししている。また、パンが好きな利用者が多く、パン焼き機を購入し手作りパンも楽しんでいる。合わせて家族より季節の果物の差し入れも多数あり季節の味も楽しんでいる。新型コロナ収束後には「回転ずし」や「道の駅」に外食に出掛ける予定でいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養面を考えた食事の提供を行い、1日の水分量の把握を行っており、習慣によってはご本人の嗜好品での栄養・水分確保も行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	磨き残しがないように不十分な部分の磨き直しや、ご本人様にあった口腔ケアキットを使用している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけ、ご本人様で排泄が行えるように排泄パターン・習慣などの把握を行い自立に向けたケアを行っている	自立している方が三分の二強、一部介助の方が三分の一弱という状況で、夜間のみポータブルトイレ使用の方が三分の一強となっている。起床時、おやつ時、食事前、就寝前の定時の声掛けに合わせ、タブレットの生活記録を参考にパターンを把握し様子を見ながら声掛けをトイレ誘導を行っている。排便については3日間ない場合は医師に相談しながら排便コントロールを行うと共に「お茶」「ジュース類」を中心に1日1,000cc以上の水分を摂取することで排便に繋げ気持ち良く過ごしていただけるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	身体状況や個々の身体能力に合わせて運動の働きかけや飲食物の工夫をして排便コントロールを行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前、午後などのお一人お一人の希望に沿って、着替えも職員と一緒に揃えて入浴を楽しんでもらっている	自立している方は若干名で、一部介助の方が大半となっている。基本的に、週2回、入浴を行い、希望により3回入浴する方もいる。入浴拒否の方もいるが誘い方に工夫をして入っていただくようにしている。浴室は安全に配慮し広々としており、上部には大型ヒーターが設置され冬に向け快適に入浴していただけるように配慮がされている。また、寝たきり状態になった時には併設デイサービスの特殊浴槽が使用でき安全にも配慮されている。入浴剤をしようしたり、「菖蒲湯」「ゆず湯」「リンゴ湯」等の季節のお風呂も楽しんでいる。更に、入浴後にはリンゴ味のスポーツドリンクなどを飲みながら寛ぎのひと時を過ごしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や食後の休息なども含めて、ご本人様の身体状況に合わせて、就寝時間や環境整備に努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理ファイルにて、薬の目的や副作用、用法や用量、服薬の支援や症状の変化の確認ができ、理解している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人お一人の趣味や得意事など、役割を持ち、存在と楽しむ気持ちを大切に支援を行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域のみなさんと協力しながら出かけられるように支援している	ご希望に沿っての近隣へのお散歩や気分転換・家族や地域の方々との協力し外出ができるように支援している	外出時、独歩の方が半数、車いす使用の方が半数という状況である。現状、新型コロナ禍が続くような外出ができていないが、天気の良い日には近くの公園まで散歩に出掛けたり季節に合わせて併設デイサービスの車を借りて花見やバラ見学に出掛けている。今年度後半も含め、新型コロナの感染状況を見て季節に合わせた外出計画を立てドライブを兼ね出掛ける予定であるという。	

グループホームコスモスポールスター

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所にてお預かり金があり、ご本人の希望で使用することはできるようになっている。施設内の自販機でのお買い物など、ご自身で購入していただく機会を設けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望に応じて電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が不快や混乱を感じないように、共有の生活スペースとして居心地が良い工夫と配慮に努めている	6階建ての総合ケアセンターの3～4階に当ホームがあり、ユニット毎の行き来はエレベーター利用となっている。各ユニットの食堂兼ホールは広々とした造りになっており、大きな窓からは外の景色が一望でき開放感が漂っている。ホール内は季節の飾り付けをしており、現在は「クリスマスツリー」が施され、壁には塗り絵等の利用者の作品が飾られている。食事については、現在、新型コロナの感染対策を図るべく対面での食事は避け、間隔を取って横並びで食事を取るようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースには独りの空間やソファを置いて気の合う者同士で過ごすことができるような工夫をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様の馴染みの物や家具などを配置し、居心地よく安心して過ごせるように工夫している	整理整頓が行き届き清潔感が漂う居室には洗面台とクローゼットが備え付けられており暮らし易い造りとなっている。家に居た時に馴染んで使っていた物を持ち込んでいただき自由な生活が送れるよう支援している。使い慣れたイス、テーブル、衣装ケース、コタツ、テレビ、仏壇等が持ち込まれ、家族の写真に囲まれ思い思いの日々を送っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人様で行えることは、できるだけご自分で理解して、ご自分でできる喜びを感じて頂けるように安全で安心した生活が送れるように環境整備を行っている		